

「スポーツを通じた地域活性化」に関する研修会 会議

1. 会議概要

(1) 開催日時：令和4年5月26日（木） 10：00～11：30

(2) 開催場所：千曲市役所 3階 301大会議室

(3) 次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 講師紹介
- 4 研修会

演題：「スポーツを通じた地域の活性化」

～観光と健幸のスポーツ 人口減少・高齢化社会ですべき長期投資～

講師：(株)信州スポーツスピリット

代表取締役社長 片貝 雅彦 氏

- 5 閉 会

2. 講演

「スポーツを通じた地域の活性化」ということで、私どもは千曲市と前々千曲市長の近藤清一郎氏の多大なるご尽力をいただき 2011 年から bj リーグに新規参入することができた。そのときもまちの活性化をスポーツの力でやっていこうということがメインテーマで、企業理念もバスケットボールを通じて信州を元気にしていくということを一貫して当初から続けている。副題として「～観光と健幸のスポーツ 人口減少・高齢化社会ですべき長期投資～」。いままでのスポーツは好きなスポーツがあれば打ち込み、若いころは部活動に取り組み、学校教育のなかでは体育があるということであった。これからはいかに経済と結びつけられるかが現在のスポーツのあり方でもある。千曲市の人口減少、人口減少は全国の課題でもある。そして高齢化社会において、どうやったらスポーツに対する長期投資をしていきリターンを得られるのか、まちや市民の利益につながるのかということをお話したいと思う。

私は他県出身で、転勤族の父の関係で3～5年ごとに引っ越しをしていた。現在44歳になり千曲市在住11年目で、人生で一番長くこのまちで暮らしている。

ウォリアーズはことぶきアリーナで試合や練習をしたりしているが、観戦されている方が100%になるように頑張っていきたい。まだ観戦されていない方には覚えて帰っていただきたいが、バスケットボールの醍醐味は「大きい」「近い」「面白い」「楽しい」「予定しやすい」であり、気軽に観戦していただきたい。事務所は桜堂にあるのでお立ち寄りいただけるとありがたい。バスケットボールの競技人口は全世界で No. 1 といわれており、男女比も同じである。トータルで4.5億人、日本の競技者登録は63万人である。3×3、車いす、FIDなど多種多様なカテゴリーがあるので広く多くの方たちに楽しんでいただいている。東京オリンピックで初めて海外で活躍する選手がジャパン代表で歴史的な本選出場を果たした。本戦では1勝もできなかったが、露出

も増えているので真ん中に写っている八村塁選手はほとんどの皆さんがご存じだと思う。海外に挑戦している主な選手はこの3人である。女子も史上初の銀メダルを取り、長野市出身の選手が1人いる車いす男子も銀メダルを取った。そして3×3も正式種目となり、バスケットボールブームが東京オリンピックによってつくられたと思う。信州ブレイブウォリアーズはオール信州でがんばっていこうという思いを込めて名付けられた。地域に根差したクラブを目指し、ロゴも武者の兜をモチーフにして、色は日本人によく似合うといわれている紺青（ウォリアーブルー）、日本アルプスの雪山をイメージした銀（日本アルプスシルバー）、姨捨の田毎の月をイメージした黄（姨捨名月イエロー）である。

この写真は立上げ当時の写真で、旧更埴庁舎で撮影させていただいた。このときは長野市出身の宇都宮正選手が加入していた。ホームタウンとして受け入れていただいた千曲市には、合併した旧更埴市、旧戸倉町、旧上山田町をバスケットボールでひとつの千曲市にしたいという思いがあった。前々千曲市長の近藤清一郎氏がよく「産業なくして市の繁栄なし」といっていた。こうしたことにスポーツの力も使っていくことも教えていただいた。当時はチームのかたちもなく選手もいなく、千曲市はハンドボールが盛んなのになぜバスケットボールなのか、チーム名が長く言いづらい、覚えにくいといわれた。当時は戸倉体育館がメイン会場で、収容が1,500席、冷暖房なし、シャワーは離れというプロの興行としては厳しい状況であったが、熱いブースターの皆さんに足しげく通っていただき、プレーオフに行ったときには2,300人のファンの皆さんが詰めかけていただき、1,500人超であるとお叱りを受けた。その後ことぶきアリーナでB2リーグの優勝させていただいたときの空気感、3,200人のところ3,400人来ていただいて通路にも人が座り通るところもないくらい熱気に包まれた。会場のことぶきアリーナからカラオケ店の手前まで人が並び、非常にたくさんの方からご期待をいただきながら優勝することができた。野球小僧だった私が関西に住んでいたことがあったので、阪神タイガースが優勝のときに風船を飛ばしたので、ウォリアーズが優勝したら同じように風船を飛ばすしかないと思い、ファンの皆さんにお配りして風船を飛ばした。アウェイの方もいらしたが、ことぶきアリーナが姨捨名月イエローに染まり、熱狂に包まれた。

スポーツの力や可能性という意味では、プロのみならずアマチュアスポーツでも熱狂をつくり出すことはスポーツに力があると感じている。スポーツで千曲市を活性化となると、する人、みる人、ささえる人を集めなければいけない。人が来ればお金も情報も集まるが、活性化という意味では人、お金、情報を好循環で回していくことが不可欠である。しかしながら千曲市の人口は10年前の63,000人から59,000人にまで減少している。どのように解決していくのかということで、定住人口が下がっていくのであれば交流人口を増やす。市外・県外・国外から千曲市に来てお金を落としてくれる人をどのように増やしていくのか。千曲市に来る目的や理由をつくるのはスポーツがよいのではないか。千曲市の最大の長所は1日4,000人宿泊可能な温泉街があることだと思う。全国の対戦相手のチームと話をするなかで、これだけの温泉街が体育施設の近くにあるところはほかにないといわれた。これだけ収容キャパのある宿泊施設が集まっていて、白鳥園や万葉超音波温泉という日帰り温泉もある。スポーツ選手にとっても疲労回復やけがの治癒、観戦するお客様にとっても温泉施設がスポーツ施設のすぐそばにあるというのは千曲市の魅力だと思うので、活かしていく以外にないと感じている。温泉×スポーツ、または温泉観光×スポーツということ千曲市がどれだけ外に向けて、営業力をつけていくか、そういうところに私たちも寄与できるとよいと思う。

アリーナについては、ハコというのは屋外スポーツだと野球場とかサッカー場になるが、施設のサイズはよく議論されることだと思う。大きなことに越したことはないが、大きいだけでなく、機能や多目的性や多様性が備わっていないとマネタイズすること、効率化することは難しい。やはり議論になるのは予算の関係や人口が減少しているなかで、3,000人とか5,000人とか収容サイズの施設が必要なのかという質問をよくされるが、逆の発想で、だからこそ必要なのである。大きければそれだけキャパは大きいので人や大会を呼ぶにも、たくさん的人数、チーム、大会を呼ぶことができる。人口が少ないから小さな施設でよいとなると、非常に中途半端な施設になってしまい、誰のための施設なのかという話をよく聞く。実際に使っている市民の皆さんからそういった意見がでてきてしまう。世界的にも国内的にも様々なアリーナができていますので、知見を集めてより千曲市にあったものをつくっていくというのが非常に重要なのではないかと思います。スポーツ施設という言葉にとらわれずに、ここから経済活動をしていく拠点としてスポーツ施設を考えていくことが必要なのではないかと。市民利用と市外の方の利用について、市税でつくられるものは市民のためにとすることは当然であるが、観光と融合させるためには市外の方の利用を促進する必要がある。これを両立させることにヒントがある。収容規模・多目的・多様性の高い施設ができれば経済効果や雇用創出につながっていくという考え方である。

こちらは最新の先駆的な事例になる。沖縄アリーナは2021年に竣工され、沖縄市所有、竣工費159億の9割が思いやり予算なので16億円くらいが地元負担である。非常に多目的性があるように設計されていて、バスケットボールの試合がメイン会場でBリーグの琉球ゴールデンキングスのホームアリーナになっているが、どの階のどの席からも見やすい。板を剥がすとコンクリートになっているので、モーターショーや展示会、コンベンション、音楽コンサートなどができるようになっている。天井から510インチの天吊りのモニターが釣り下がっていて4方向から見え、片側に移動をしてシアターモードにもなる。VIPのお客様のためのスイートが30部屋もある非常に多様性がある。確かこけら落としはドリムズ・カム・トゥルーのコンサートが予定されていたがコロナの影響で中止されたが、実現されていればキャパ1万人のコンサートが行われていたのだろう。次の課題は誰が運営するのかである。沖縄の場合は琉球ゴールデンキングスの運営会社が沖縄アリーナの指定管理者になっている。アリーナの運営もバスケットチームの別会社が行っている。バスケットボールのホームゲームは30試合くらいしかないで、残りの330日をいかに満杯にして、お金をつくれるようにしていくのか。アリーナはアクセスがよくない場所にあり、那覇市ではなく沖縄市にあり、那覇空港から車で行かないとたどり着かない。近場のイオンやミュージックタウン（音楽施設）から無料シャトルバスを運行するなど工夫をされている。次に長岡市のアオーレ長岡であるが、沖縄アリーナよりも前にできたものである。市役所とアリーナが隣接していてシアターなどもある。下の仙台市にあるゼビオアリーナ仙台はアイスホッケーもできる会場で、沖縄アリーナよりも小さいが多目的・多様性のある施設だと聞いている。右側に縦に並んでいるものは計画が打ち出されていて今後竣工されていくアリーナである。群馬の太田アリーナ、国体にかけて建築を進めている佐賀のSAGAアリーナ、愛知県立でこのなかでは最大級の15,000人収容の名古屋アリーナ、長崎シティプロジェクトはサッカーに進出していたジャパネットがバスケットボールにも進出して、ジャパネットがまちの活性化ということ建設される。ウォーターフロントで一番おしゃれだと噂されている神戸アリーナ、南船橋アリーナは富樫勇樹選手が所属する千葉ジェッツふなばしのアリーナとなり、三井不動産とミクシィ民設民営である。経済の拠点化ということで、どのくらいの効果があるかという点、2022年のサッカーキャンプ

の経済効果（沖縄）で、直接効果や間接効果を算出すると 559 百万円の効果があった。呼ぶだけでこれだけの効果があり、沖縄なので交通・移動費も含まれている。松本山雅の場合は、自社が依頼した調査機関の数字であるが、年間で 54.5 億円の経済効果をサッカーで生み出している。左下の写真は以前宮城県のグランディ 21 で開催されたオールスターゲームのときのものである。私も現場に行ったが、非常にボランティアの皆さんがご高齢者の方が多くて、60 歳以上の方たちが非常に楽しそうにされていた。ルールがあったみたいで重たいこと、危ないことは絶対やらない。そして楽しくやるといふボランティア団体の皆さんが、ホスピタリティの精神をもたれていて元気に活動されていた。雇用という意味では賃金はでないと思うが、活動という意味での活性化というのはスポーツイベントによって生み出された 1 例である。

建築費をいかに集めるのか、市だけの負担では厳しいと思し、ほかの事例を聞くと企業版ふるさと納税を最近使われているようで、群馬の太田アリーナはバスケットボールの会場になるが、チームがオープンハウスという東京にある総合不動産会社を買われた。社長が太田市出身で地元貢献したいということであった。このままの体育館では B 1 基準を満たすことは難しいということで新しいアリーナをつくることになり、企業版ふるさと納税制度を使ってオープンハウスが太田市 80 億くらい納税をして、見返りとして法人税が最大 9 割に相当する額が軽減され、現在建築中である。アリーナをプロが使うようになると、なかなか市民の利用が難しくなる可能性がある。

机上の空論であるが、従来の四角型から十字型という案があり、中央にメインの会場をつくり、その周りは観客席で埋められる。そうでない場合は十字に体育館がつくられていて、大きなブラインドカーテンのようなもので仕切り、アメリカでは当たり前のようにつくられていて小さな公民館体育館でも 2 面あってそれぞれ隣同士で違う競技が行われているが、お互いじゃましないように大きなスライドカーテンが天井から仕切っている。これができた理由は、単に長方形だとやるにはたくさん面が取れてよいが、プロ興業のときには 360 度観客席をつくりたいとなるが、どうしてもピンク色のところがデッドスペースになりもったいない。もう一つの案としては、この 1 面だけはカーテンなどで仕切って赤いところは違う団体が使う。青と緑のところでは別の興行をする。問題は同時開催、お客さんの導線をどうするのか、仕切りが難しいとか、ゲートオープンの時間をどうするのかという問題が永遠に解消されないということがあったが、十字という案というと、市民利用のときはこういった 4 面で使って、角は観客席になる。プロの興行のときは真ん中の 1 面だけを使う。壁側からロールバックシート、ことぶきアリーナと同じようなシステムのイスが出てくる。空いているスペースのピンクの角には可動式のイスを出してくるというようなアイデアである。これはどこにも実現していないと思うが、こうしたアイデアもあるので市民利用 vs 市外の方たち、プロの興行というのはこうした発想というのはなかなかいけるのではないかと思う。形も変えられるので、スポーツだけでなく文化的な活動をするときにはロールバックシートを出して、上からカーテンなどで仕切れば劇場型という使い方もできる。

事例を紹介しながら今後の戸倉体育館の再建設のときには、ぜひ私どものプロ興業屋としてのご提案も市民利用とプロ興業、市外県外からやってくるイベントと両立できるよう考えてやっていきたいと思う。屋内だけの話になるが、日本政策投資銀行の資料であるが、オランダとかにはたぶんドームではないサッカー場を真っ二つに切ってこういうこともやっているそうだ。半面はバスケットやバレーボールで使いながら、観客席はそのまま、サッカーのときは 100% 使うなど、こういう仕切りを使いながら利用していくというような事例も世界にはある。国内で先駆的

なのは沖縄アリーナ、アオーレ長岡、ゼビオアリーナ仙台であるが、3～5年で新しいアリーナができるのでぜひ視察等に行ってください、情報を共有させていただき、より建設的でお金が産める、人を集められる施設が戸倉にできれば温泉街も活性化と思う。

3. 質疑応答

- ・ウォリアーズのホームアリーナがホワイトリングであるが、収容人数はどのくらいなのか。
- 現状は 5,500 人くらいである。1階フロアにロールバックシートがないので、イスを置けるだけ置ける状態である。いまは 6,000 人のキャパシティーをめざしている。
- ・多目的・多様性に富んだアリーナ案で海外ではサッカーとバスケットという話があった。千曲市では野球場をつくってほしいという意見があるが、野球とバスケットが一緒にできるような施設や事例があったら教えていただきたい。
- 事例をみたことがないが、野球場とサッカー場はある。ニューヨーク・ヤンキースの本拠地であるヤンキー・スタジアムがそうである。いまアメリカでもサッカーブームで、色々なサッカーチームができています。もともと移民の国なので、サッカーが盛んな国の出身者が多くサッカー熱が上がっている。そのなかでアメリカンフットボールの会場でサッカーをやると、会場のキャパが 7 万とか 5 万とかというところなのでサッカーで 2 万人入っても空席が目立つ状態である。そこでヤンキー・スタジアムのマウンドを当日は削って、サッカーの試合をした。いまも続いているのかわからない。野球場は形として、ソフトボールやサッカーやラグビーの試合をする可能性があると思う。多目的で色々な機能をもたせてやるのかと思う。バスケットを屋外でというのは難しいと思う。
- ・アウェイのチームについてくるブースターの 1 試合の平均人数と、千曲市にお客様を呼び込む何か手立てとか、(株)信州スポーツスピリットが考えている案があれば教えていただきたい。
- 平均数値はもっていないが、先日の滋賀戦に行った数では 200 人、ホームゲームに琉球が来たときは 180 人であった。まだまだサッカーに比べると少ないが、常に平均でもっていけるようにしたいと思っている。長野県のよいところを打ち出すということでバスケット観戦をしながら観光や、温泉にも入っていただきたい。今後は後援会支部を東京につくったり、名古屋にも長野県の県人会があるので支部をつくったりしたいと思っている。その方たちに観戦を引き受けていただいて、そのパッケージをつくっていき、東京や関東圏からもたくさん来ていただきたいという狙いがある。東京都から長野、東京から名古屋の移動時間は同じだが料金は半額であるので、比較のお安くツアーが組める。長野県は住みたい、移住したい県の No. 1 であるから、そういう意味でも発信していきたい。
- ・地域活性化につながる 1 番のものは、千曲市や長野市出身の選手を育ててウォリアーズに入ってもらふことだと思う。選手育成の現状と今後について伺いたい。
- アンダーカテゴリーにユースチームとして男子だけであるが 18 歳以下の高校生の U18、中学生の U15 がある。よい素材の選手がでてきても県外の高校に進学してしまうとか、県内の場合は男女とも東海大諏訪高校の 1 強のため、競い合うレベルにしていかないといけない。われわれにできることは、知見のあるレベルの高い指導者たちを外からアカデミーのユースチームのコーチに呼んできたり、前にも 1 度やったがアメリカの NBA の選手の個人トレーナーによるクリニックを子どもたちにしたりすることである。このときはウォリアーズの選手たちが自分たちに教えてほしいとやってきたくらいである。プロクラブでしかできないヒューマンリソース、体験的なものを提供していくことで地域に戻し、子どもたちが成長していく。こういったことは時間がかかることである。プロになるのは一握りの選手であり、様々なよい要素が合わさらないとプロ選手は誕生しないが、現在 1 人だけ長野市篠ノ井出身の三ツ井利也選手が在籍している。
- ・(株)信州スポーツスピリットと包括協定を結んでいただいた。千曲市のスポーツを通じたまちづく

りということで、温泉とスポーツということがあったが具体的にあれば教えていただきたい。また何か事例があればお願いしたい。

→提案していること、今後も展開していきたいことはユースの活性化である。Bリーグのクラブは必ずU18とU15のチームをもたなければいけないという規定で、もたないと除名されてしまう。Bリーグクラブ主催の全国トーナメントは今後50くらいに増えていくだろう。下部のユース世代のチームの大会などを多く誘致していけば、県外から相当数のチームや保護者が来るし、大学のコーチ、スカウト陣も来ると思う。そうした取り組みをぜひ戸倉体育館の新しいバージョンが4面とか3面+サブアリーナ1面とかができてくれば、24チームくらいは呼んで1日で試合を回していけるのではないかと。育てる拠点という意味でも戸倉体育館には期待をしている。

・Bリーグの審査基準が厳しくなったが、ウォリアーズとして今後クリアするために具体的にどのようなかたちで行うのか方策を教えてください。

本日は多世代の職員が参加させていただいている。ウォリアーズとして実直に市に求めること、ウォリアーズを含めたまちづくりの想いもあればお伝えいただきたい。

→今期もことぶきアリーナで4試合させていただいたが、私どもの力不足で3,000人のキャパのなか、最初の2試合は50%の規制がかかっていたので1,400人が定員で、満員であったが、後半になりコロナの影響もあったがなかなか満員にすることはできなかった。来場をして観戦いただくのはタイミングがあり難しいと思うが、ぜひ千曲市の職員の皆さんにも足を運んでいただきたい。またご家族やご友人に、一度試合に行こうというような活動を広げて、続けていただけたらありがたい。市の職員の皆さんには掲示板を回していただいたり、試合の告知をしていただいたりご協力いただいているが、ことぶきアリーナをいっぱいにするができていないので申し訳なく思っている。ことぶきアリーナの雰囲気がとてもよく、席も近くてコートからファンの熱を感じられるので、千曲市の試合は埋めていきたいと思っている。試合だけではなく、まちでどれだけわれわれが活動をしているかが大事だと思うので、以前にしていた幼稚園や保育園や小学校への訪問活動、千曲市にある後援会の本部の皆さんと考えながら存在感を示していきたい。

新リーグはアリーナの要望がキャパだけでなく、沖縄アリーナのように単価の高いお客さんを呼べるようなスイートルームやラウンジルームのような、全体キャパの2%の方をお迎えできるような部屋を用意することになっている。いまの体育館を改修するのは至難の業なので新しくつくっていくしかないとなっていて、かなりハードルが高い。われわれとしてはホワイトリングにそうした小部屋を付け足して行って、修繕していくという案で進めている。トップの島田チェアマンには、ホワイトリングはもともとオリンピック施設なので建物は合格なのではないかといわれているが、リクエストされている部屋をいくつかつくれるかを相談しながらやっている。そこが合格しないと新B1リーグの基準に到達できないので注力している。

・中学校の部活動の地域移行を進めようとしているが何も決まっていない状態である。千曲市の中学生のなかで部活動に参加している人が1,500人中1,200人くらいいるが、1,000人強の子どもたちを地域で指導していくことになる。いま現場の先生たちからの意見を集約している。今後、指導者の確保や会場、学校からも生徒の送迎という問題が出てくるだろう。ウォリアーズはユースチームをもっているということなので、指導者の確保等について相談させていただくことがあるかもしれないので、そのときはご助言等をお願いしたいと思う。

→長野県バスケットボール協会の傘下に入っている。そうした話し合いもしている。一番の課題は会場で、土日に部活はできないというなかで、小中学校の体育館をどれだけ使わせていただ

けるのかである。次の課題は指導者の人材である。バスケットは登録制度があり、コーチライセンスを取らないと指導できない。管理している協会に先生方には登録していただき、共有していきたいと思う。バスケットはウォリアーズのユースだからということではなく、小中学生と一緒にスクール活動をしたり合同練習をしたりは必要だと思うので、ぜひ会場の確保を広く柔軟に市のほうにお願いしたい。

・例えばトップチームとユースチーム、地域移行された部活動を受け入れるような専用練習施設についてお考えなのか。

→あれば様々なことができると思うが、自分たちで建てることは難しい。まだ体力がないのでしっかりとプロの興行でしっかりとお金をつくっていき、投資をしていきたいと思う。コロナになったら社会体育館も学校の体育館も使えなくなる。有事のときにも対応できる専用施設はほしいと思う。

・プロスポーツの興行という意味では沖縄の事例では30日の稼働で、330日の利用を考えなければいけないということであるが、330日の利用ということでプロスポーツのチームと市民との交流のビジョンやプランがあれば聞かせていただきたい。あるいは沖縄事例でもよい。キャパが大きければ交流人口の受け入れの余地は増えると思うが、それをどう使いこなしていくのか。ウォリアーズとしての考えがあればお聞かせいただきたい。

→沖縄に関しては、サブアリーナがあるのでメインアリーナでできるだけ経済的にも潤うようなコンサートやモーターショーやアジアのコンベンションを呼んでいる。サブアリーナで琉球ゴールデンキングスの選手が練習する以外には、市民に時間を限って開放しているが、市民利用の時間は限られている。

今後考えられるのは、アリーナや練習場にウェイトトレーニングルームが絶対必要である。そこでフィットネスジムのようなことが展開できれば、チームのトレーナーを配属して市民の方に利用していただける。体育館のフロアで各競技団体の練習やイベント、しっかりとしたパーティーがあれば1面はウォリアーズの練習、そのほかの面でソフトバレーボールや卓球の練習をしたりすることができる。競技団体に所属していない方がいかに健幸増進のためのフィットネスができるかは、付随施設のトレーニングジムとか大きなバイクのようなものが揃えられれば、プロのトレーナーなどを配属することができる。

・日常練習の施設利用はどうか。仮にホームアリーナのような施設ができた場合は、日常練習の利用を考えているのか。

→いまはことぶきアリーナで週2回ほど借りて練習していて、週2～3回ホワイトリングで練習している。しかし予約が密集すると、ウォリアーズの練習のせいで予約ができなかったという声を聴くので心苦しい。やはり専用練習場を求めているので、バスケットコート1面は常に使える環境を整えていきたいと思う。練習は個人差があるが、朝9時から夕方5時くらいまで2部練をするときもある。施設が2面なのか3面なのかということで、市民と共有できるとよいと思う。シーズン中の土日は遠征に行っているので専用の1面も空いており、ホームゲームになるとホワイトリングやことぶきアリーナを使用しているので、そういった予約のすみわけができればよいと思う。

4. 研修会を受けての検討ポイント

(1) ホームアリーナ建設の可能性について

- ・新リーグ基準のホームアリーナは、ホワイトリングの改修で対応する考えだが、新アリーナの建設も考えている。
- ・ホームアリーナでのバスケットボールの試合は年間 30 試合程度で、残りの日数の使い方を考える必要がある。
- ・観客席の部分を普段はスポーツの場として多目的に利用するとあるが、そこまでの広さが必要かどうか検討の余地がある。

(2) 練習拠点として整備する可能性について

- ・現在練習はホワイトリングとことぶきアリーナを主な拠点としているが、市民利用もあるため、専用練習場を求めている。
- ・バスケットコート1面は常に使える環境を整備したいという考えであるが、遠征に行っているときもあるため、総合運動公園のなかで整備する場合、そのあたりを含めて市民利用と共存できるか検討が必要。
- ・練習施設として整備した場合、トレーニングジムを備えられれば、プロトレーナーの指導を市民が受けられる可能性がある。
- ・選手の育成にも力を入れており、下部組織や地域移行された部活動の練習拠点になれば選手育成の拠点となる可能性もある。
- ・練習拠点が戸倉地区にできると、ブレイブウォリアーズがより身近な存在となって、地域全体で「ささえろ」機運の醸成や、バスケットボールを通じたスポーツ振興につながる可能性がある。また、ことぶきアリーナとの差別化も図られる。

(3) 多目的性・多様性について

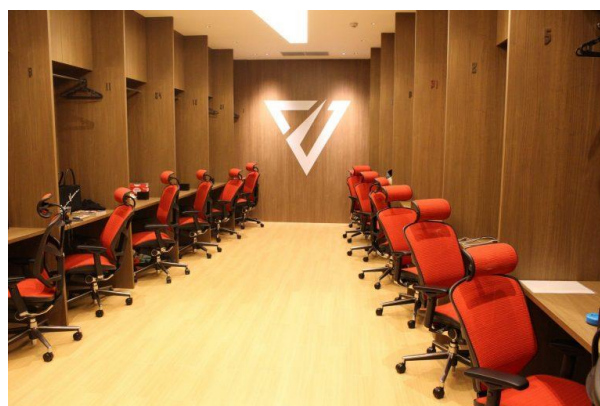
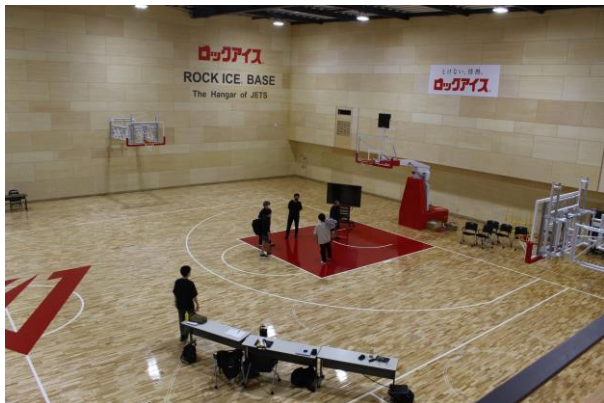
- ・単一目的の施設だと収益や利用率を上げることは難しく、事例でも多種目のスポーツの利用やスポーツ以外の利用など多目的に利用しているケースが多かった。総合運動公園構想のなかでも、多くの利用や交流を生むうえで多目的性・多様性は重要なポイントとなる。

(参考) Bリーグ練習拠点

・ロックアイスベース（小久保製氷冷蔵株式会社）

千葉ジェッツの専用練習場として昨年4月にオープン。

コートのおすぐ横にトレーニングルーム、食堂、ケアルームがある。



・カミニシヴィレッジ（学校法人大藤学園）

旧上野幌西小学校跡地を活用した「カミニシヴィレッジ」内に、レバンガ北海道の公式練習場として、同施設の体育館を一部専用利用。昨年4月にオープン。



・秋田ノーザンゲートスクエア

Bリーグ所属秋田ノーザンハピネッツ、社会人チーム JR 秋田支社バスケットボール部「ペッカーズ」の練習拠点。地域開放日を設定している。



地域開放のお知らせ (5月・6月)

AKITA
NORTHERN GATE
SQUARE

※ 秋田市の新型コロナウイルス感染警戒レベルの現況を鑑み、開放可否を調整しております。

5月の開放日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月の開放日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※ 開放日は4月26日現在の情報です。
予約状況により変更となりますので、予約受付専用ダイヤルにてご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止について

- ・別紙1【秋田ノーザンゲートスクエア地域開放予約時の注意点】及び別紙2【秋田ノーザンゲートスクエア利用確認書】の内容を確認の上、ご予約下さい。
- ・当分の間は秋田県内在住者のご利用に限らせていただいております。
- ・体調が悪い方は、当日の来館をご遠慮下さい。
- ・予約日から利用日まで毎日の検温をお願いします。利用日までの間に、平熱を超える発熱があった方は、来館をご遠慮下さい。
- ・来館の際は、マスク着用の徹底をお願いします。（着用していない場合は入館できません）
- ・新型コロナウイルス感染者の使用が疑われた場合は、体育館を一時閉鎖し、体育館及び多目的室の貸出を中止いたします。

【予約受付】
株式会社東日本企画秋田支店
(予約受付専用ダイヤル)
受付時間：平日 10:00～17:00
☎ 018-800-2148
※利用日の1か月前～10日前まで受け付けます。

・BREX バスケットボールコート

宇都宮市清原工業団地内にある宇都宮ブレッक्सの練習コート。一般に開放している。



・長崎ヴェルカクラブハウス

長崎ヴェルカの活動拠点、バスケットボールスクールの開催拠点となっている。練習機材やトレーニングルーム、温浴施設等設備が充実。

